

## 令和3年白老町議会人口減少に対応する政策研究会会議録

令和3年 5月12日（水曜日）

開 会 午前10時00分

閉 会 午前11時42分

---

### ○会議に付した事件

#### 協議事項

1. 理事者との懇談会の振り返りについて
  2. アンケート調査協力企業への結果報告について
  3. 総括シート、アンケート結果の絞り込み
- 

### ○出席委員（8名）

座 長	大 淵 紀 夫 君	副 座 長	佐 藤 雄 大 君
委 員	西 田 祐 子 君	委 員	氏 家 裕 治 君
委 員	久 保 一 美 君	委 員	長 谷 川 か お り 君
委 員	貳 又 聖 規 君	委 員	森 哲 也 君

---

### ○欠席委員（なし）

---

### ○職務のため出席した事務局職員

事 務 局 長	本 間 力 君
主 査	八 木 橋 直 紀 君
主 任	神 綾 香 君

## 人口減少に対応する政策研究会（第17回）

### 【調査事項】

事務調査：人口減少に対応する政策研究「若者定住」について

#### 1. 理事者との懇談会の振り返りについて

○大淵座長 懇談会の全体を通して振り返りをしたい。理事者全員に出席ただけてよかった。

○長谷川委員 外国人就労者の住宅問題について理事者へ相談等していたが、実際に現場を見に行っていることが分かった。前向きに検討しているという思いも伝わり、少しずつ前進していることが感じられた。

○氏家委員 議員と理事者の持っている感覚の共有ができた。それぞれが考えている定住移住策の考え方など、情報共有ができてよかった。人口減少に対して、定住移住について取り組んでいたが、関係人口についても合わせて考えないといけないと感じた。

北海道建設新聞で「北海道空き家情報バンク」についての記事があった。白老町にも空き家バンクがあるが、北海道と連携しているところは少ない。問い合わせは北海道にきている。一定の需要はあるので窓口をはっきりさせなければいけない。「定住移住」と「関係人口の増加」の考え方をマッチングさせないと経済が回っていかない。そう考えたときに、理事者との懇談は様々な面で情報共有ができたように感じる。

行政は政策等について可能性はあるが財源の問題もあるという。議会は、その可能性を具現化するために行政を後押しする役目がある。しっかりした理論付けをして、行政を動かしていく役割がある。

○西田委員 今回の政策研究会での議会の考え方を共有することができた。まちづくりに対して、行政と共に取り組んでいる姿を見て安心してもらえたのではないかな。

地域おこし協力隊に対する財源の現状を知ることができた。白老町に住みたくないという人の回答を見て、若い女性に優しい町なのか気になった。もう少しその部分を深めていきたいと思った。

○久保委員 地域おこし協力隊の財源と実態について、自分が把握している話との相違を感じた。予算を別枠で設ける等、受け入れ枠の拡充を検討してほしい。

環境教育に取り組むことによって関係人口の創出にも繋がるという話を聞いた。教育の部分からも定住策について貢献できる部分があると実感できた。教育長もそういった取り組みをしているとのことだったが、さらに踏み込んだ活動に発展していければと感じた。

○貳又委員 理事者には政策研究会の熱量を感じてもらうことができた。

人口減少問題について現場の声が理事者へ届いていないように感じた。現場の声を役場内で集約しながら、人口減少に立ち向かっていくというところがないと、政策議論が進まないと感じた。

民間事業者等とも連携して、地域課題は何か、人口減少を克服するための政策をつくる仕組みが必要であると感じた。5年後10年後の白老町はどうなっていくのか知るためにも、現場の声や実態を把握する必要がある。

○森委員 理事者全員との懇談会は大変有意義であった。アンケートも読み込んでおり、互いに情報共有ができた。協力企業へアンケートを返却する際にも、理事者懇談のことは伝えたい。

教育の充実が今後の課題であると感じた。

○佐藤副座長 理事者と、関係人口についての再認識やイメージ化ができた。

地域おこし協力隊に対する考えが聞けてよかった。地域おこし協力隊増員の実現に向けた資金や管理体制などの議論が必要であると考えた。

○大淵座長 地域おこし協力隊の財源や実態について聞くことができたが、それを踏まえて議会の政策研究会としてどのように対応するべきか。具体的な改善の部分で言えば、議会と行政のすれ違いの部分の修正できるのではないかな。

○貳又委員 地域おこし協力隊は今後も活用していくべきだと考える。町が今後どのような政

策を持っていくのかという考え方があって協力隊を活用していくのだと思う。

当町の場合、ウポポイができたので「観光」に勝負していただけたと浅く感じる。作り込むには役場の各部門で議論をするべきである。それを集約して町の方針を決めて、協力隊で補っていく必要があると感じた。

○**氏家委員** 貳又委員の考えが一つのベースになると思うが、あくまで政策研究会の中で、要点を絞らなければいけない。将来的な展望と眼下にある問題意識について議論することが大切である。その中で後継者問題は大きなものである。将来、地域資源についてどうしていくのか。関係人口を増やして経済を豊かにしていくのか、政策研究会の中でしっかり議論していくべきだと思う。

後継者不足の問題について、地域おこし協力隊を活用できるのではないかな。

一番大きな要点は「後継者不足」「将来のまちづくりの展望の方向性」である。先ほどの新聞記事の中には道外からの需要の高さに対して活かさきれていないのは「地域の熱量の差」が挙げられていた。移住定住策についても、ただ継続していただくだけでなく、時代の流れに対応して議会として提言していくことが大切である。

○**西田委員** 協力隊の活用について、行政に任せるだけでなく、企業にお願いすることも大切である。実際に地域おこし協力隊を求めている事業者の声も聴いている。商工会や観光協会等と協力して全体で組織作りすることが必要である。協力隊にとってもそのほうがよいと感じる。

○**大淵座長** 町と議会の関係性をはっきりさせることが大切である。議会は議会として政策を立案して、同時に町も町として政策立案していく。その関係性をしっかりと受け止め、不要な部分は議会として正す。どちらかが動かないからという問題ではない。政策研究会として何を作り上げていくか。役割を明確にしていく。

今後も懇談会は必要か、どのように活かしていくかが大切である。懇談会の中身は個々が議会活動の中で活かしていくべきだと感じているがどうか。

関係人口を増やすことが政策としてよいと思われたが、それだけではないと思う。関係人口が目に見えるようにはできないか。そういった仕組みを政策研究会として作ることはできないか。

○**氏家委員** 関係人口を増やすという考え方は展開が難しいと思う。

白老町の地域資源を活かした定住移住策を考えていく事が大切である。流行りにとらわれず、地に足を付けた政策を。町民生活向上のために、行政と共に考えなければいけない。

将来的な経済効果や関係人口の増加に向けて考えることができるのではないかな。

○**大淵座長** 科学的根拠に基づいた関係人口の考え方や経済効果の考え方はどのように分かるのか。

○**貳又委員** 町外の人が白老町へ観光に来て、ウポポイだけ立ち寄ってほかのまちへ行くとウポポイにしかお金が落ちない。しかしそこで陣屋資料館がウポポイと連携することができれば、陣屋資料館や昼食も白老町でとることになる。これは関係人口ではなく交流人口となるが、このように白老町へ立ち寄ってもらうことが大切である。

関係人口を増やすにはふるさと納税や観光情報の発信をすることが大切であり、それによって移住定住に繋がると思う。そういった仕組みづくりが重要である。

○**佐藤副座長** 関係人口については関係の深さによる。年に1度来る人と毎月来る人では経済効果が違う。個人が別荘等に訪れるのか、事業や行事があつて訪れるのかでも変わってくる。それぞれを数値化して、どれだけ関係人口を増やしていくのかという目標を設定して政策を考えていくのがよいと思う。

○**大淵座長** 関係人口についてどのように把握できるのか、数値化できるのかが分からないと議論ができない。町民も分かるようにするのはどうしたらよいか。町だけでなく、議会としても考えていく必要がある。

○**氏家委員** 大学との連携によって具体的な関係人口の数値化やデータ化は可能なのではないか。

○**貳又委員** 市場分析でいうと、インターネット検索サイトで3年程前に白老町へどれだけ観光客が動いたか分析を行っている。その中で、牛肉まつりの効果でガソリンスタンドへ多く訪れていることが分かった。どのように白老町内を回ったか、訪れたかも分析している。白老町はアイヌ関係よりも牛肉関係で訪れていることが分かった。民間企業でもこのような分析を行って

いる。

○氏家委員 大学と連携することで、最終的に政策研究会としてどのように活かすのか。現場知識のある議会と方策知識のある大学との連携で政策提言することができるのではないか。

○大淵座長 政策提言するためには科学的なデータが必要である。大学との連携は考えていきたい。

○氏家委員 大学の教授によると学生は様々なデータを基に政策を研究している。事例は地域によって異なるので、白老町がいまどのようなようになっているのか、研究として来てもらうことはできないか。ただお願いするのではなく、お互いに協力して作り上げていくことができるのではないか。

○大淵座長 ひとまず理事者との懇談会の振り返りとしては終了し、大学との連携やデータについては今後具体的に迫れるように議論していく。

## 2. アンケート調査協力企業への結果報告について

○大淵座長 結果報告について、今月中に企業へ配付したい。

○西田委員 報告の際に、座長からの文章なども付けたほうがよい。

○大淵座長 鑑文については作成し添付する。

○貳又委員 総括表のようなものがあるとよい。回答者の男女比や年齢、回答の傾向など箇条書きで資料があるとよい。

○大淵座長 総括表については事務局に作成をお願いしたい。

○西田委員 訪問はしたいと思うがコロナウイルスの心配もある。

○氏家委員 玄関先であっても訪問し趣旨を伝えたい。企業の方が可能であれば事業所内で結果について話したい。

○大淵座長 郵送か訪問か統一したい。各企業の状況を確認し事前に連絡をした上で訪問、可能であれば結果について話をしてくるということとする。

各担当者については18日(火)までに総括表を受け取り、今月中に各企業へ訪問し報告することとしてよろしいか。(一同：よろしい)

## 3. 総括シート、アンケート結果の絞り込み

○大淵座長 意見が多く出ているので、総括シートをしっかりと作り込みたい。次回の研究会を使って絞り込みをしたい。26日(水)は定例会等があるため、そのほかの日程で行いたい。25日(火)開催はどうか。(一同：よろしい)

○大淵座長 今後の活動について、第15回にも話したように中高生へのアプローチや外国人就労者増の対応策についても考えていきたい。

○氏家委員 中高生へのアプローチについて具体的にはどのようなものか。

○大淵座長 白老町に就職する者が少ないと感じるので、交流を通してどのような魅力あるまちづくりをすれば就職してくれるのか、中高生の考え方を聞きたい。議会として、地元の学生がどのような白老町に対する見方をしているのか知りたい。

○氏家委員 広報広聴小委員会でも、高校生へのアプローチは話題に出ていた。学生に「議会はこうして動いている」と知ってもらえるのはよいと思う。議会との関わりで学生たちにどのような影響を与えるのかしっかり考えるべきだと思う。その部分をもう少し考えるべきだと思う。

○大淵座長 白老町に魅力を感じてほしい。定住してもらうためにはどうしたらよいか、白老町に対して持っている希望、そうでないことについて知りたい。関係人口に繋がるきっかけを作りたいと思う。

○氏家委員 中高生との懇談はやるべきである。やる以上は話を聞くだけでなく、しっかりと具体的な内容を絞り込んで進めていきたい。広報広聴小委員会で行うものとは異なる視点で行いたい。

○大淵座長 今回の町外アンケートと同じく、手探りの部分もあるので、今後議論していきたい。

・広報広聴小委員会の活動と共有できる部分については共有して行いたい。

○西田委員 中高生との懇談は必要である。実施する際には、男性や女性などによって考え方も

異なると思うので、1か所で行うのは難しいと考える。事前調査をした上で展開していく事も必要であると思う。

○大淵座長 今出た意見を考慮しながら今後の対策を考えることとする。

外国人就労者についての問題は、どのように深めていくか。実際に移住定住を考えている外国人就労者の声も聞いている。一定のデータもあるため、今後の展開について具体的に進めていく必要がある。政策としてどうしていくか考えていきたい。

○氏家委員 理事者との懇談会でも感じたが、外国人就労者とのコミュニケーションの在り方がネックになると考える。外国人就労者としては、自分から働きかけるのは難しいと思う。周りの人から働きかけること、自分たちには何ができるかということを考えなければいけない。政策研究会としても、何ができるか考え、形にしていなければいけない。

○西田委員 企業と連携して、外国人就労者との懇談の場を政策研究会で設けることはできないか。企業などを介して行った方が外国人就労者も参加しやすいのではないか。

○大淵座長 アンケートに協力いただいた企業などに参加してもらうことは可能であると考えている。相手の状況や要望を確認した上で、懇談会を行うことや繋がりを持つことがではないか。アンケートの結果報告時に話をしてほしい。今年の秋頃を目途に考えていきたい。

#### 4. その他

○大淵座長 それでは次回は総括シートの絞り込みを行うため、各自で補強したい項目や事業案の絞り込みについて検討しておくこと。